

子供たちの未来や夢の実現に向けて

2学期がはじまりました。夏休みはそれぞれの御家庭で、それぞれの過ごし方をされたと思います。毎年思いますが、40日間の長い休みは保護者の方も本当にお疲れだったことと思います。また連日の真夏日に、エアコンの電気料金を気にしながらも熱中症予防に努められたことと思います(でも水道の水はぬるかったのでガス代は節約できましたね)。加えて今夏は、お盆の時期に台風が2つも直撃しました。みなさまの故郷や御親戚の方で被害にあわれた方もおられると思います。せっかくの帰省や旅行中に台風による交通機関の乱れの影響を受けた方もおられるのではないのでしょうか。お見舞い申し上げます。

さて私たち教職員も夏休みをいただきましたが、教職員の夏は研修の夏でもあります。本校では全員参加の研修として「メンタルヘルス研修」「児童・生徒理解と支援」「知的障害教育校に多い整形外科的な問題や課題に対してのアプローチ」「不審者対応訓練」「少年犯罪の指導について」「卒業後の進路選択の幅を広げるために」などの研修に加え、希望者参加による研修会も8講座設定いたしました。

その研修会の中でも「卒業後の進路選択の幅を広げるために」という研修会は、私と杉並区立済美養護学校の校長とで相談し、両校の進路指導部が企画した研修会でした。近年、知的障害のある子供たちの進路希望や受け入れる進路先の状況変化に、知的障害特別支援学校の普通科であり小学部から高等部まで設置している本校と、中学部卒業生を多く本校に送り出す済美養護学校、令和7年度から本校と一緒に都立しいの木特別支援学校も招き、各学部で子供たちに身に付けさせたい力とは何か、合同で勉強しよう企画したものです。講師として、進路先でお世話になっている杉並区福祉課の方、福祉施設の方にも参加していただきました。

研修会の冒頭、私は参加している先生たちに「受け持ちのクラスの子供たちにどんな大人になってほしいと思いますか」と投げかけました。漠然とした問いですよね。やさしい人になってほしい、いろいろなことができるようになってほしい、企業就労してほしい、いろいろあると思います。保護者のみなさまはどのように思われますか？お子さんの夢や希望は何でしょうか。

子供たちは高等部を18歳で卒業してからの人生が長く続きます。学校卒業は一つの節目ですが、人生を決定する節目ではありません(私も転職を繰り返しました)。私たち教職員が直接子供たちの指導に当たれるのは12年間しかありませんが、私は子供たちが、それぞれの力を存分に発揮して「よりよく生きる」「よりよく社会生活を営む」こと、そのいしずえとなる「力」をつけてほしいと願っています。そして何より、子供たち自身の夢や希望、意見を大切に、御家庭と協力して子供たちを導いていきたいと思っています。しばらく残暑が厳しいようですが、感染症や熱中症などにも気をつけ、子供たちと一緒に2学期の学びを深めてまいります。